



再選めざす 日本共産党 そねはじめレポート

2011年 6月6日発行 第37号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel: 3907-1135
Fax: 3906-3225

日本共産党区議団の区長要望さっそく実現

家具転倒防止器具を3倍の1500件に拡大

北区内（豊島8丁目の遊び場）で放射能測定するそねはじめ
前都議(中央)、山崎たい子区議（左）と相談を寄せたお母さん。



●住宅リフォーム助成、家具転倒防止器具の 申し込みが増えれば「柔軟に対応」と約束

5月末と6月に北区議会の防災委員会や建設委員会などで日本共産党区議団は、住宅リフォーム助成や転倒防止器具の申し込みが予定を大幅に超過しつつあることを示して、「申し込んだ全ての方に適用を」と求めました。

北区はいずれの制度も重要性を認め、「申し込みが多ければ柔軟に対応」と答えました。6月6日発表の補正予算では転倒防止器具は500件を1500件に3倍化する増額予算が盛り込まれました。●

6月6日の区議団緊急申入れに「放射線測定以外は予算に入れていく」との区長回答

6月6日、9名の区議団は10項目を区長に緊急要望しました。

- ①区が早期に、放射線を独自に定点測定し公表すること。
- ②保育園・学校給食は可能な限り放射線量を低く抑える食材を。
- ③家具転倒防止や住宅リフォーム助成は、全員適用へ制度を拡充すること。
- ④民間建築物の耐震改修助成の抜本的増額。
- ⑤区民施設の節電は区民要望を聞き、サービス低下招かぬよう。
- ⑥国や都にはたらきかけ自然エネルギー活用と開発への支援を。
- ⑦避難者の実態を把握し、指定区域外からの避難でも生活支援を。
- ⑧豊島の緊急避難施設入居対象を家族以外にも。
- ⑨公営住宅の一般公募再開を。
- ⑩中小企業の風評被害等の支援を。

●北区はなぜ放射能汚染の測定・公表に消極的なのか

この要望に対して、花川区長は、「大半は今後の予算に反映していくよう検討する」旨の回答でしたが、「放射能測定は23区統一で行なうべきで、区長会で提案したい」と北区独自の測定にきわめて消極的でした。定点観測は、都内各地で測定機器や方法を統一すれば精度を上げることができますが、それ以外にも共産党区議団が取組んでいるような保育園や学校、遊び場など、子どもが土や草に触れる場所での“出前”測定など、さまざまな方法を工夫して区民の不安にこたえることこそ区政のとるべき姿勢ではないでしょうか。（北区内での主な測定結果を裏面に掲載）

6月11日石巻市に救援ボランティア派遣（共産党北地区委員会）

日本共産党は北区から、そねはじめ前都議、のの山けん区議など6名で、宮城県石巻市の共産党の救援センターを中心に、救援ボランティアと支援食糧・物資を届けるために訪問します。

現地の状況を区民の皆さんにも報告していきます。また、救援・復興募金などへのご協力を引き続きよろしくお願いします。（お問い合わせはそねはじめ事務所まで）